

「神宮の母」と呼ばれて



6月21日に83歳を迎える松崎弘子さん。2020年の東京五輪までの最大テーマは「健康な身体づくり」。東京オリンピックと野球が私を元気にしてくれますと語る

小西得郎のプロ野球の実況中継を、私は何度も聴いたことがある。小西の「何と申しませうか……」のセリフはあまりにも有名で、野球ファンのギャグにもなっていたからだ。アルバムの写真の手に、松崎さんは次つぎと説明した。

「これは法政出身の山中さんとの写真。神宮球場の記者席で撮ったものよね。後輩の江川さんが山中さんの六大学野球の通算48勝の記録を抜くかもしれないという、1977（昭和52）年春のリーグ戦のときにテレビ解説を引き受けてくれた。アナウンサーは土門さん



法政大出身・山中正竹氏（右）と。神宮記者席での一枚

キシコオリンピックが開催されているときだ。松崎さんは同時期に開催された国体（国民体育大会）の中継を担当し、貴重な体験をしていた。

「メキシコオリンピックのときの国体は福井県で開催され、私はラジオの陸上競技中継を担当していました。ところが、公開競技として行われていた高校野球で、地元若狭が決勝進出し、名門の松山商業と対戦することになった。そのためでしょうね。地元要望もあり、NHK福井放送局がローカル放送で中継することになり、私が野球中継を担当しているということで、決勝戦の前日の夕方に『お願いします』って。それでメインのディレク

ターとしてやることになったけど、もうこのときもドタバタの中での中継でした。カメラは3台だけだし、それに準備の中継車。あちこちからかき集めたスタッフで中継しなければならぬ。大変だったけど、若狭が優勝したこともあり、地元ファンには喜ばれましたね。たぶん私が思うに国体の高校野球がテレビ中継されたのは、後にも先にも福井国体のときだけじゃないかしら……」

ちなみに負けた松山商は、翌年の夏の甲子園大会を制した。決勝戦は松山商の井上明、三沢高の太田幸司の両エースの投げ合いとなり、延長18回引き分けの末に再試合で優勝している。もちろん、松崎さんは中継スタッフとして甲子園にいた。

* * *

神宮球場から徒歩で15分ほどか。渋谷区神宮前の隠れ家のような静かな喫茶室。松崎さんは、張りのある声で私に話し続けた。手



読売巨人軍V9祝賀会ゴルフ大会に参加したときに撮った、川上哲治氏（右）とのツーショット写真。松崎さんが高田繁氏のファンだということを知り、よく冷やかされたという

でね、解説者初体験の山中さんが言っていた。『ベテランアナウンサーの土門さんに助けられた』ってね。

山中さんの他にも六大学の中継のときは解説者のみなさんにお世話になりました。1984（昭和59）年のロスオリンピックで金メダルを獲得したときの日本代表監督で、2007（平成19）年に野球殿堂入りした松永怜一さんを始め、慶應OBの福島敦彦さんと高多倫正さん、立教OBの篠原一豊さん、早稲田OBの石山建一さん、東大OBの河野敏章さんたちの協力を得て中継することができました。忘れられない人たちですね。

この写真は川上哲治さん。読売巨人軍V9祝賀会ゴルフ大会に参加したときのもので、川上さんは私が高田さんのファンだということを知ってらっしゃったから、よく冷やかされましたね……」

アルバムの中には20代のときに甲子園ネット裏でカメラを横に撮った貴重な写真、1972（昭和47）年の冬季札幌オリンピック中継のときの写真、野球中継前に技術スタッフたちとスタンドで撮った写真もある。さらにNHK放送センターの302の副調整室でPD松崎さんが、スタッフに指示を出

元には貴重な写真が納められたアルバムがある。

「この写真、誰かわかります？ 戦前から野球や相撲の実況もしていた、NHKを代表する名アナウンサーの志村正順さん。たしか2005（平成17）年に野球殿堂入りしたとき、私が付き添い役で一緒にしたときのもの。志村さんは、この2年後に94歳でお亡くなりになったと思う……」

松崎さんの説明に、私は頷いた。昭和30年代だったと思う。ラジオで志村アナと解説者

している写真も納められていた。

「5年後の2020年に開催される、2回目の東京オリンピックの年には私も88歳。それまでは元気な姿でいたいわね。野球が大好き、スポーツ大好き人間の私はスポーツ一筋に人生を送ってきたし、地元開催のオリンピックは何よりの楽しみです。もちろん、競技会場に足を運んで、この眼で観たいです。そのためにも健康に留意し、元気な体を維持しておかなければいけないと思っています。」

50年前の東京オリンピックのときは、横浜の実家からリアエンジンのコンテッサを運転して通勤していたし、元気だった。50歳のときに野球よりも止まっているボールを打つのは簡単じゃないの、と思ってゴルフを始めたけど、ベストスコアは48・48の96。たいした腕前ではないけど、私の2020年までの5年間の最大テーマは「健康な身体づくり」じゃないかしら。とにかく、東京オリンピックと野球が私を元気にしてくれます」

この6月21日、松崎弘子さんは83歳を迎える。

岡邦行「おか・くにゆき」
1949（昭和24）年生まれ、福島県出身。法政大学社会学部卒業。ルポライター。スポーツを中心に取材執筆を展開。99年「野球に憑かれた男」で報知ドキュメント大賞受賞。単行本化。最新刊は「天皇鎌吉の東京オリンピック」（東海大学出版会）。